

部会名：農都地域部会

第2部：部会報告

1) 現在の社会状況と目指す姿

<現在の社会>

- ・グローバル市場経済論が基調
- ・大規模集約型農林業への移行促進
- ・化石燃料・原子力エネルギー偏重
- ・安心・安全を踏みにじる放射能汚染
- ・放耕/遊休農地の拡大と限界集落化
- ・大規模化に偏った技術/事業開発

<目指す社会>

- ・絆/技/知恵で持続循環型社会を構築
- ・自伐/集落活性化を伴う多様な農林業
- ・小水力/木質燃料他再生エネルギー開拓
- ・除染し、安心・安全を届ける農業復興
- ・農林地の多面的活用、地産材開発で人/資源/経済を活性化し、自然環境を復元し豊かな人間性と社会的な事業を開拓

<実現するために必要なステップ・アクション>

- ・市民参画型で双務契約にもとづく意思決定・事業開拓/評価・推進管理
- ・農都連携の場に資産/資源/資本/人間力を結集し、6次産業と創意・文化を発信

2) この1年間で作成・提出した政策リスト（代表的なもの5つまで）

| | タイトル | 概要(内容・対象・予算額・担当省庁等) | 期待される成果 | 実現度 |
|---|----------------|--|--------------------|-----|
| ① | 避難民対策 | 遊休農地・空家等の公的借り上げと双務契約による優先入植・研修サポート | 避難民生活権確保と地域活性化 | 50% |
| ② | 瓦礫類・バイオマスの資源化 | 瓦礫を資源として活用し、移転高地分譲地厨芥・廃棄物も資源として活用する | 循環型社会に向けた社会基盤の基礎づけ | 50% |
| ③ | 新しい生活へのチャレンジ | 自助・共助を尊重して復興事業で雇用確保し、地産バイオマスを開拓し、積極的に活用 | 絆を基に持続型社会への布石が打てる | 50% |
| ④ | 再生エネルギーの推進 | 小水力発電、直接燃焼効率化等の再生エネルギーを開拓し、小規模地域内循環を確保 | 地域内での再生エネルギーの開拓活性化 | 30% |
| ⑤ | 林地・中山間地域の復旧・復興 | 小規模林業で復興材を確保し、広葉樹も植え、多面的に活用し、流域全体の役割機能復活 | 生態系豊かな流域環境の復活・活性化 | 50% |

その他、提言の内容について何でも（上記以外のもの、全体的な方針など）

津波被害への対策は、長期視点に立って循環型社会を形成する好機でもある。再確認された絆を核に自助・共助をベースに市民参画型の地域マネジメント法人を立ち上げるべきである。流域全体が豊かな生態系と生活環境を保ち、新しいバイオマス資源と再生エネルギーが確保され、豊かな自然環境が、様々な人間力を持った世代を育んでくれる。放射能対策は、このような環境のもと、農都連携して除染し、安心と安全を届けるネットワークを構築して風評被害を打破することで打開できる。

3) 2) の各提言の進捗状況を詳しく!

| | 成果・獲得したもの | 課題・困難 | 今後の作戦 |
|---------|---------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|
| 提言 ① | 遊休農地・空家・空き施設の公 的借り上げと利用権貸与 | 双務協定でサポートネットワーク・ 農業インストラクター養成・研修 | 市民参画型で行政等とも 連携して関係構築 |
| 提言 ② | コンクリ瓦礫は堤防骨材とし木 材はマルチング材として活用 | 移転高地分譲地での厨芥・有機 廃棄物のエネルギー/肥料活用 | 賦存量最大のし尿資源化 と公共下水道投資低廉化 |
| 提言 ③ | 復興事業で雇用確保し、復興住 宅に地産木材を積極的に活用 | 木・竹・草由来のバイオマス資源 の開拓と使用環境整備が不十分 | 地域集落の活性化とリン クして創意工夫活力強化 |
| 提言 ④ | 小水力発電の電気料金も設定 され、直接燃焼方式が促進 | 地域内循環する再生エネルギー 活用技術及びシステムの開発 | 様々なNPOが連携して地域 の宝探しを行い実証 |
| 提言 ⑤ | 小規模林業で復興の薪を販売 し、林地・堤防を混雑林化 | 林地・木材を多面的に活用し、流 域全体の役割機能を復活 | 海と山の交流、都市と中 山間地の交流を深め復活 |

その他、提言の進捗について何でも（全体的な総括など）

被災からの復興に向け基本政策が示されたにすぎず、社会的な枠組みや事業性確保に向けた課題はこれから明確になる。予算権が市町村に下りて、視点が限定され、大局的な施策が生きにくいところもある。中央と地域両面から政策・予算・事業が連携できるように進めなければ、評価者が片務的になったり、政策課題が微視的になったりする。NPO中間組織の役割機能の明確化が課題でもある。

4) この1年間の主な活動

| | 日時・場所 | 概要 | 満足度 | 成果・課題 |
|---|---------------------|--|-----|-------------------------------|
| ① | 4月5日(火) 東京都千代田区 | 東日本大震災対応緊急フォーラム “ニッポン農力向上 & 震災復興大作戦！” | 60% | 震災復興の緊急提言発表、 有機農業の啓発 |
| ② | 6月9日(木) 東京都千代田区 | 震災復興支援フォーラム第2弾 “我が国 森林・林業の再生をいかに進めるか” | 90% | 機械化・集約林業と自伐林 家の対比、ネットワーク拡大 |
| ③ | 9月5日・19日 東京都千代田区 | ふくしま復興フォーラム「除染と風評対策」 「住民・行政・支援NPO協働で復興」 | 80% | 被災地と都市住民をつなぐ ネットワーク形成、現地支援 |
| ④ | 1月20日(金) 東京都千代田区 | 環境・森林フォーラム「BDF活用による ふくしま復興と、森林・林業の再生」 | 70% | フォローアップの実施、 森林整備の新たな視点獲得 |
| ⑤ | 3月17日(土) 東京都千代田区 | 新しい公共フォーラム2012「3.11後、これ からの『地域』の話をしよう」 | 95% | 白熱教室で満足度が高かつ た、次への期待が膨らむ |

活動の様

左から

③,⑤,⑤,

意見交換会



5) 現在の組織状況

厳しく、仲よく、助けあって

| | |
|--------------|---|
| 部会メンバー | 人数:238名(メール加入者) 団体数:150以上 ☆主な構成団体:農林業の振興及び都市農山村をむすび地域活性化、農商工連携(6次産業化)を図るNPO等の団体 |
| 部会長 | 河口 博行 (NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ(ナルク)、専務理事) |
| 問合せ先 | nutochiiki@gmail.com (農都地域部会事務局) |
| この部会の魅力 | ①農山漁村と都市・地域部会名でカテゴリが広く、何でも取組むことができる。 ②多様、多世代の全国的集まりであり、特に経験豊富な人材が充実している。 |
| この部会の課題 | ①現場の課題を確認し、政策提言にまとめあげ、その実現までをフォローしていく、という政策の入口から出口への流れに沿って活動を行う。 ②政策の入口・出口双方ともに、ネットワークの拡大・拡充を図る。 ③活動の一つずつ確実に実施していくために、運営体制を強化する。 |
| これから1年の活動プラン | ①在京の勉強会で、課題をピックアップする。②フィールドワークやヒアリングで現場の課題を確認する。③府省職員・研究者等との意見交換会(農都創造サロン)で提言ブラッシュアップする。④市民キャビネット政策フォーラム等で、政策提言する。⑤部会独自のロビーイング等で、提言をフォローする。⑥在京の報告会で、検証する。 |

その他、今後の活動について何でも(部会の野望など、自由に!)

古い公共的手法かもしれないが、今年から活動方針を定めて組織的運営を心掛けている。政策実現には市民・NPOの側も背景力(政治力)が必要。地域の人口バランスを回復するために仕事創造を進めたい。